

会議名称：平成30年度12月期古賀市社会教育委員の会議

日時：平成30年12月20日（木） 19時～20時30分

場所：古賀市役所 第2委員会室

主な議題：①第6回古賀市生涯学習笑顔のつどいについて

傍聴者数：なし

出席者：松本委員、松末委員、角森委員、國友委員、上野委員

檜山委員、村山委員、平島委員、井浦委員

（以上委員9名）

中村生涯学習推進課長、柴田参事補佐、森田

欠席者：船越委員

事務局：生涯学習推進課社会教育振興係

配布資料：レジュメ

会議内容：以下のとおり

松本議長：

皆さんこんばんは。定刻になりましたので会議を始めます。最初に、おめでたい話を紹介させていただきます。文化の日の記念式典において、社会貢献者として、社会教育委員の中から國友委員が表彰を受けました。國友委員ひと言お願いします。

國友委員：

これまで周りの方々に支えられ、見守られながら活動することができました。コミュニティに11年携わり、社会教育委員として活動させていただいたことが実を結び、このような表彰を受けるに至ったのだと思います。これからも頑張りますので、どうぞよろしくをお願いします。

松本議長：

それでは次に協議事項につります。「2. 第6回古賀市生涯学習笑顔のつどいについて」事務局からお願いします。

事務局：

本日の会議の流れについて説明します。レジュメにも記載しておりますが、最初に第6回古賀市生涯学習笑顔のつどいについて、ペアワークを通して、原案の作成をしていただきます。その後各グループに発表していただいた後に、質疑応答へと移ります。原案作成の際には、11月社会教育委員の会議の研修の中で各委員から出していただいた、笑顔のつどいの課題点および新たな方向性についてまとめた資料を添付しておりますので、そちらを参考にしてください。

松本議長：

先月の社会教育委員の会議において第5回目までの生涯学習笑顔のつどいの見直しをいたしました。講師の助言を受けながら課題等の検討をいたしましたところ、非常に豊富な意見がでております。ですので、一度ペアワークを通じて、これらの意見をもとに方向性を絞っていただいて、原案を作成していただきます。その後、日を改めまして、私と副議長及び事務局の間で、本日提案されました案をもとに、第6回古賀市生涯学習笑顔のつどいの原案を作成し、1月の社会教育委員の会議において皆さんに提示いたします。それでは時間を20分とりますので、協議を行ってください。

(各委員による協議が行われ、各グループの原案が提出される。)

松本議長：

では各グループ発表をお願いします。

角森委員：

最終的には伝えるということテーマにしたいと思います。伝統芸能の話も出ておりましたし、子どもたちの中には習い事という形で何かを学んでいる子どもも多くなっています。本来ならば、保護者が自分でその内容を子どもに伝えるということが望ましいと考えています。また、活動団体の中から実行委員を選出していただいて、笑顔のつどいという活動発表の場に出していただき、交流館のさらなる利用促進につなげることも考えました。他にも食文化を伝えるということで、JAとコラボしてスイーツコーンのような特産物を知ることや、古賀の伝統的な料理を学ぶという意見も出ました。

松本議長：

我々は始めた趣旨にのっとり、社会教育団体の活動にスポットを当て、活動団体の交流を促し、交流の中で学んだことを地域に帰って還元するという方向性で考えました。根幹には研修という学びの場を設けたいと考えておりますが、皆さんからの意見の中に、活動の場や体験の場を設けることで、もっと広げていってはどうかとの意見がありましたので、第1部として従来通りの研修の場を設け、第2部として体験の場として、高齢者によるしめ縄作りの実演や体験の場や、図書館と連動して読み聞かせの場を設けるなどの意見がでました。このように実施することで、参加者の増加や多世代間の交流も促進できるかと思えます。また、若者の参加という部分に着目すると、若い世代の団体に出演していただくことを考え、竟成館高校の部活やボランティアサークルによる発表もいいのではないかと思います。ただし、まつり古賀等とのコラボについては、趣旨が異なってくるため、実現することは難しいと考えました。

平島委員：

最終的な目的としては、住みよいまちづくりにつなげていくことが重要だと考えています。また、アンケート結果からもわかるように、継続して参加している人が少ないということは、つどいをきっかけとした団体同士のつながりも十分ではないのではないのでしょうか。では、例えばテーマを子どもに絞って実施する場合、どのようにすればいいかということですが、皆さんが発表を見て、活動団体に参加しやすくな

るような、もっとくだけた発表もいいのではないかと思います。

國友委員：

11月の会議で皆さんが挙げられました課題をまとめていきますと、やはり参加者の不足が重大な課題であると考えました。これはPRの不足や、市民に広く認知された笑顔のつどいになっていないことが原因であると考えてます。それと、テーマやコンセプトがぼやけているという現状もあり、そこに人を呼び込むだけの力が足りない。結果として、地域づくりを担う多世代にわたる交流が促進できていないということが、大きな課題となっていると思います。そして他のイベントとの合同開催については、今すぐに実施というのは難しいかと思えます。それは次のステップであると考えていますので、毎年つどいの見直しをした際に、このような方向性を視野に入れて組み立てをしていきたいと思えます。それで、テーマを絞るということですが、子育てということが一つ大きなテーマになると考えます。これに対する子育て世代がやっている取り組みであったり、地域での取り組み、高齢者による取り組みなどを、発表および体験できるつどいのできたらいいなと考えています。参加者数については、テーマを絞ったとしても、そこに携わる人は、幅広い年齢層の方々になりますので、大きく減少することはないと考えています。

松本議長：

それでは質疑応答に移ります。

私たちのグループで出た意見ですが、若者の参加者の促進を考えた場合、テーマを子育てや青少年の健全育成等に絞った場合は増加すると考えていますが、高齢者福祉などに絞った場合、参加者は減少するのではないかと懸念しております。このように、テーマを絞るのは参加者の年代の偏向につながるリスクもあると思えますが、テーマを絞るということについて、皆さんはどのように思われますか。

井浦委員：

小学校でもオレンジ教室という学習や、福祉施設の見学や体験というものをやっています。このように高齢者でない人でも高齢者について学ぶ機会というものはあるんですね。ですので、周知の仕方を工夫することで高齢者以外の方に声は届くと思えます。例えば、1つのテーマに対して2年間のように長いスパンで組み立てを行った場合、参加者の方が展望を持てるような周知を、毎回実施することも必要だと思います。

村山委員：

今、テーマを絞るということについてお話がありましたが、市内においてもそこそこでフェスタ等のイベントが実施されているかと思えます。同じようなものが古賀のあちこちで行われていた場合、例えば福祉に関するものであればサンコスモの方がきっと質のいいものをご用意いただけるかと思えます。ここで、私たちも社会教育というものの本質について考えていかなければ、特色がでないと考えています。また、参加される方については、行事が乱立している中でも質の向上を目指さなければ、来場者にとっても質の良い体験にはならないと思えます。もし笑顔のつどいで第2部として、分科会形式をとるのであれば、こ

のようなことも意識していかなければ、今一つ印象に残る活動にはならないかと思います。

國友委員：

テーマを絞った際にも多くの方に参加してもらうにはどうしたらいいかということですが、各世代へのアピール方法を考えなければならないと思います。先ほど出た高齢者の介護の話为例にとりますと、若い世代に対しては、いずれ介護をする必要が出てくるため今のうちから学べることは何か、50代ぐらいの方々には、今からできる予防策は何かなど、一つのテーマを取り上げた場合も、各世代によって課題は違っても同じテーマについて考えることはできるかと思います。

井浦委員：

テーマを絞るにあたって、他のイベントとの連携は取りにくくなるかもしれませんが、関係団体との連携は取りやすくなるのではないかと思います。笑顔のつどいも、既存の団体をつないでいく場にはなるのかなと思います。

松本議長：

今、提出していただいた案をもとにして、1月に事務局と会議を行います。そのうえで作成した原案をもとに、1月の社会教育委員の会議において、第6回古賀市生涯学習笑顔のつどいの方向を決定したいと思います。

では、協議事項はこれで終了します。「3. その他」に移ります。まずは各委員からお願いします。

(井浦委員から、飯塚市庄内生活体験学校について紹介。)

松本議長：

では事務局からお願いします。

(事務局から、市長、教育委員と社会教育委員の懇談会および社教情報 No. 80の購読について案内。)

松本議長：

質問等がなければ、終わりの言葉を松末副議長からお願いします。

松末副議長：

お疲れ様でした。